

(別紙6)

1. 評価結果概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成 20 年 10 月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	0770101152		
法人名	社会福祉法人 ライフ・タイム福島		
事業所名	ロング・ライフ フクチャンち		
所在地	〒960-8154 福島市伏拝字清水内25番地 (電 話) 024-546-3627		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなのビル302号室		
訪問調査日	平成20年9月12日	評価確定日	平成20年10月22日

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9 人, 非常勤 人, 常勤換算	7.8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 平屋 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円
敷 金	有 (円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護 1	1 名	要介護 2	2 名
要介護 3	2 名	要介護 4	3 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 87.2 歳	最低 77.5 歳	最高 96.6 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 白寿会 福島中央病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は旧国道沿いの市街地にあり、建物は一般住宅を改装したもので、外観は施設的でなく地域の風景に溶け込んでいる。設立当初より地域とともにを念頭に活動してきており、9年目を迎えている。町内会に加入し、地域の行事等には積極的に参加して交流してきている。また、事業所の空きスペースを婦人会や地域の活動に開放し、地域の交流の場として定着している。日ごろより訪問者が多く、利用者は外来者に対しても違和感なく接しており、安心して生活していることが感じられる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 評価結果を全職員で話し合い改善に努めると共に、運営推進会議等に結果を公表している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 事業所内では独自に自己評価を年2回実施している。評価の方法は3名1組として各グループで自己評価を行ない、各グループの自己評価を全体会議で検討し、事業所としての自己評価を作成している。この自己評価を通してサービスの質の向上やケアの見直しに役立てている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議は奇数月の第3水曜日に開催している。委員は地域包括支援センター職員・町内会長・民生委員・老人会・家族代表等で構成され、内容も事業所の行事、地域の行事への参加、避難訓練への協力体制、外部評価の報告等多岐にわたっている。また、認知症への対応や介護事業についての意見交換など行っており、運営推進会議の意義を十分に活かした取り組みをしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用料は毎月全家族が持参しており、その際に利用者の状況や事業所内での生活の様子を報告すると共に、意見や要望等を聞き取るように努めている。寄せられた意見は職員会議や運営推進会議等で検討している。最近も家族からトイレの増設の要望があり増設した。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会や学校行事への参加など地域との交流には積極的に取り組んでおり、ボランティアや中学生の体験学習等の受け入れも実施している。また、日常的に隣近所との交流があり、野菜等の差し入れも多く、近所の方が留守にする場合には事業所に鍵を預けるなど友好関係を築いている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根ざした理念を作成し、地域との交流やゆっくりゆったりと安全な生活を送れるように支援することを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング等機会あるごとに全員で唱和し、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣との付き合いを重視し、町内会のお祭りや運動会などの地域の行事に積極的に参加し、交流をしており、地域からも参加を求めている。買い物は地域の商店を利用するなど日常的な近所付き合いをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員が評価の意義を理解しており、年2回3名1組のグループで自己評価を行い、評価結果を持ち寄り全員で現状を理解し、改善の目標を立て改善に取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等につい て報告や話し合いを行い、そこでの意見 をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催されており、会 議の内容は毎回議事録を作成し具体的な発言 内容が記入されており、運営推進会議の意義 を十分に活かした取り組みをしている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につい て、家族等に定期的及び個々にあわせた 報告をしている	毎月全家族が利用料を持参しており、その機 会に利用者の様子や健康状態を伝えている。 また、行事の際の利用者の写真とともに職員 が手作りの機関紙を定期的に家族に送付して いる。現在は利用者の金銭管理は行なってい ない。		一部の利用者は自分でお金を持ち買物等を行 なっているが、自分で管理できない利用 者の場合でも自由に買物の支援ができる様 に、ある程度家族から預り管理されることが 望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や家族会、運営推進会議等で家 族からの意見や要望を収集している。利用者 には担当職員がおり、出された意見、要望は 運営やケアに反映させている。最近も家族か らトイレの増設要望があり増設した。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や 職員による支援を受けられるように、異 動や離職を必要最小限に抑える努力を し、代わる場合は、利用者へのダメージ を防ぐ配慮をしている	職員と利用者の信頼関係がしっかり出来てお り、職員の異動は極力避け、退職等やむを得 ない場合のみである。日ごろから見学者など 外部の方々との交流が多く、職員の異動が あっても利用者には違和感が無く受け止めら れている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育を重視しており、全国各地の研修に積極的に参加を促している。法人では研修会出席の際の職員配置体制を充実させている。また、職員が各研修会の事例発表や講師となることにより、より高いレベルを目指すように指導している。月に1度法人全体の研修会を実施したり、資格取得希望者への研修会を実施し人材育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	所長が福島県認知症グループホーム連絡協議会会長であり、地域の同業者のリーダーとして職員とともに同業者と積極的に交流し、ネットワーク作りを行い、全体の質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として敬い、ささえあう生活を心掛けている。また、声かけや挨拶を重視し、利用者から学ぶことを重んじている。利用者から行事食等を習い、一緒に作ったりしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、日常生活から利用者の思いや意向の把握に努め、利用者本位の生活が送れるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を取り入れた介護計画となっている。毎月のカンファレンスでは職員全員で意見を出し合い、現状に即した具体的な計画作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりの介護計画に対しモニタリングを行い、その結果を基に利用者の状況に合った介護計画の見直しを家族の同意を得て実施している。日ごろのカンファレンスを通じ情報の共有と確認を行い新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医または協力医療機関を受診している。受診には職員が同行しているが、家族が同行して受診される方もいる。受診後は利用者、家族と職員間で情報の共有をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期の対応について事業所の指針を示し、利用者・家族に看取りに対する意向の確認を行っている。また、職員間では終末期の指針の共有に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者個人の尊厳に配慮し、目線をあわせタッチングをしながらの声掛けを行っている。利用者の記録などの個人情報は事務所に管理され、個人情報の漏洩防止に努めている。「個人情報使用に関する同意書」について利用者等から同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりのしたいこと、できることを重視しており、利用者は自由に行動している。利用者の行動パターンを理解し、それに合わせた声掛けや見守りをしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に同じ食卓を囲み和気あいあいと食事しながらさりげなく支援している。利用者はそれぞれ役割分担が出来ており、後片付けやお茶入れなどを自然に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせ、いつでも好きな時間に毎日入浴できる体制となっている。利用者の状況の変化により徐々に一日おきの利用希望となってきている。沐浴剤や菖蒲湯、ゆず湯等で気分を変えて入浴できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者一人ひとりの出来ることややりたいことと得意分野を把握し、利用者の状態に合わせ、日常生活の中での役割を職員と一緒にに行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	町内の趣味の教室など地域の行事に積極的に参加したり、他のグループホームに出かけ交流したり、買い物や散歩など日ごろから外出の機会を多く企画し実践している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日ごろから自由に外出できるよう、玄関は施錠していない。外出の場合は職員がさりげなく付き添うようにしているが、万が一ひとりで外出したのを見かけた場合などは、隣近所の方の理解を得ているので、すぐに連絡してもらえる体制となっている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	毎月15日に実際の災害を想定した防災訓練を実施し、非常災害時の避難誘導の習慣化を図っている。10月には消防署や運営推進委員等関係者も参加した総合防災訓練の実施を予定している。また、災害時の食料や水などの備蓄もしており、ガスコンロや乾電池等も用意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者と職員が作成し、季節の野菜をとりいれ、バランスの取れた食事を提供しており、利用者一人ひとりの食事の摂取量を記録している。献立は法人内の栄養士に見てもらい、アドバイスを受けている。また、水分量は一日1300ccを目安に管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれが自由にくつろげるように居間は畳と椅子が置かれ、食堂はテーブルが機能的に配置されている。周囲には利用者の書道や手芸等の作品や行事の写真が飾られ、家庭的な温かい雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は清潔に保たれており、利用者それぞれが馴染みの物を持参し、個性的な居室となっている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 ロング・ライフ フクチャンち

記入担当者名 成田 絹子

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。